

豊かで明るい日本づくり

理事長 西河洋一

明けましておめでとうございます。財団は「技術経営人財の育成」に取り組んで本年7年目に入りました。設立当初から人財育成セミナーや研究会に定期的に取り組んでまいりました。その成果が、人財育成事業の全般を支えています。

西河技術経営塾では、昨年9月に6期生を迎え、6期生を含めて25名になります。実際、塾での学びを生かし、ビジネスで顕著な成果を出している修了生も増えてきています。昨年、財団は、千葉市や横浜市に出かけて、講義をする機会に恵まれ、人財育成に関する活動の幅を大きく広げることができました。

千葉市稲毛区にある敬愛大学では『西河技術経営学入門』と題する寄付講座に取り組みました。「経営学」を学部の生徒に教えているのに、何故我々に取り組んでいる「技術経営」を教えられないのかの疑問からの取り組みでした。

学部の学生に分かり易く教えることの難しさを体験するとともに、平易な言葉でいかに分かり易く説明するのかの知見について、学ぶことができました。

寄付講座の背景に「技術を抜きにした経営などありえない」という思いがあります。変革の時代にあって、企業の強みを作り上げる経営をする上では、早い段階から技術の存在を理解して頂くことは大切だと思っています。敬愛大学での寄付講座の取り組み、教える側、教わる側の双方にとって実りある講義を展開できたと、自負しております。

また、横浜市金沢区幸浦にある横浜マーチャングデザインセンター（MDC）が取り組む『MDC技術経営塾』の運営を支援してきました。4月から開塾し、昨年の12月に5名が修了しました。事業承継を意識した技術経営塾に取り組みました。賀詞交換会には修了生およびMDCの役員の方々が参加してくれました。

名刺交換や情報交換を目的に立食パーティー形式の「新年賀詞交換会」を企画致しました。ビジネスを成功させるにはネットワークづくり（人脈構成）が重要です。歌詞交換会には、60名を越える参加申込がありました。財団は、さらに活動の幅を広げ財団を取りまく人財の輪を大きくします。今回の賀詞交換会は、それぞれが互いに顔を合わせる機会を設けようとの企画です。参加した多くの方々は、ビジネスに関わる情報交流をすることが出来ました。

本年、財団は、再度の公益財団法人化を目指します。公益財団化が実現した暁には、財団ファンドの充実に努め、財団の定款の目的にある「豊かで明るい持続的な成長をする日本づくり」に取り組む考えでおります。

本年も引き続きよろしく、ご支援をお願い致します。

(賀詞交換会理事長挨拶から)